

# 津軽の京祭り 白八幡宮大祭シンポジウム

山田 巖子<sup>1</sup>

## はじめに

令和4年8月に開催予定であった白八幡宮大祭展開催を前に、歴史的につながりの深い弘前市で弘前ねぶたと白八幡宮の関係を考えるシンポジウムを地域未来創生センターの後援により開催した。

## 1 背景と目的

野辺地町で2018年度から山車行事調査を進め、2020年度に青森県山車行事フォーラムをコーディネートした実績から、「北東北の都市祭礼」をテーマとするシンポジウムのコーディネートの依頼があった。

## 2 実施内容

2022年の弘前ねぶた300年記念と鱒ヶ沢町の白八幡宮祭礼の開催を前に、弘前ねぶた300年実行委員会、鱒ヶ沢町白八幡宮保存会共催、「山車とねぶた—東北の都市祭礼と風流—」と題するシンポジウムを7月16日に弘前市立観光館で開催した。このときの様子はweb版『東奥日報』7月16日に「山車とねぶたの関係は？ 弘前市でフォーラム」と題して掲載された。

出演者は以下の通りである。

山田 巖子（弘前大学人文社会科学部・教授）

福井 敏隆（弘前市文化財審議委員長）

中田 書矢（鱒ヶ沢町教育委員会総括学芸員）

山内 盛恭（潤紀）ねぶた絵師

登壇者の一人である山内潤紀氏は弘前大学人文社会科学部の2021年度卒業生で、2022年3月12日に開催された日本民俗学会第924回談話会で「弘前におけるねぶた絵師の「登場」と技の「伝承」」と題する発表を行っている。白八幡宮祭礼と弘前八幡宮祭礼とねぶたの関係とその歴史的経緯が、歴史学、考古学（物質文化）、民俗学の立場から明らかにされた。

<sup>1</sup> 弘前大学人文社会科学部

# 山車とねふた

—東北の都市祭礼と風流—



「津軽風俗画」(平尾魯山画) 舟舳太の図

語り合い・出演者



やまうち いっこう  
**山田 巖子** 弘前大学人文社会科学部教授

青森県の文化財保護審議会委員として、白八幡宮祭礼の無形民俗文化財指定の際に関わらせていただきました。錦ヶ沢町の方々から祭礼にまつわる貴重なお話をうかがい、地域にとつての祭礼の意味を教えてくださいました。その後の各地の祭礼調査の度ごとに、お話をうかがったことを思い出しています。  
1961年兵庫県淡路島生まれ。専門は民俗学。『講座東北の歴史 第5巻 信仰と芸能』(共著)



ふくい けんぞう  
**福井 敏隆** 弘前市文化財審議会委員

大学卒業後、高校教諭や独立郷土館研究員をしながら弘前藩の研究をしてきました。白八幡宮や弘前八幡宮について特に研究をしてきた訳ではありませんが、弘前藩の記録である『国日記』で、弘前八幡宮の祭礼記事は目にしてきました。両八幡宮の祭礼について、何かのついでにお話し出来れば幸いです。  
1951年弘前市生まれ。専門は近世史。『青森県史 資料編 近世1~3』『同 通史編2 近世』等の分担執筆



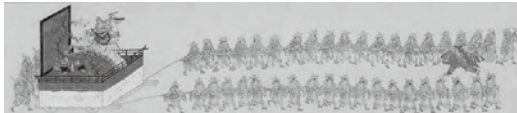
なかつた しゅじ  
**中田 書矢** 錦ヶ沢町教育委員会総務学芸員

白八幡宮大祭は、私の学芸員生活20年余の中で特別思い入れの深い存在です。調査を通じて、今はなき多くの年長者の方々を知り合い、祭礼の伝統や文化にまつわるお話をうかがうことができました。町の皆さんとの出会いを重ね、年を重ねるごとに、ますますその魅力に惹かれています。  
1973年兵庫県淡路島生まれ。町の文化財担当者・「白八幡宮大祭記録」編者



やまの しげのり  
**山内 盛泰(潤紀)** ねふた絵師

弘前ねふたは300年もの間弘前の人達が大切に守り、育んできた伝統行事で、私にとってはなくてはならないものです。その中で絵を手掛けるということには歴史の重みと責任を日々感じています。絵を描く上では弘前らしく、端正で勇ましい絵を目指し、1点1点制作しています。  
1998年弘前市生まれ。弘前大学山田ゼミ卒業生。「野辺地町の祭礼と民俗」(共著)



「弘前八幡宮祭礼図巻」 黄石公と張良山(弘前市立弘前図書館蔵)

●お問い合わせ・お申し込み

錦ヶ沢町教育委員会 TEL 0173-72-2111 青森県西津軽郡錦ヶ沢町大字舞戸町字戸321番地



錦ヶ沢町「白八幡宮大祭」



弘前市山車展示館「弘前ねふたまつり」

日時 **令和4年7月16日(土)**  
13:30~15:30

会場 **弘前市立観光館 多目的ホール**  
青森県弘前市下白銀町2-1 追手門広場内

入場 **無料 定員50人(事前申し込み必要)**

展示会  
津軽の京祭り 白八幡宮大祭展  
期 間：7月11日(月)~18日(月)  
9:00~16:00  
場 所：弘前市山車展示館  
(追手門広場内)  
入場料：無料  
内 容：神輿選御行列道具・  
衣装・パネル他  
解散会：7月17日(日) 13:30~

会場にお越しの際は、新型コロナウイルス感染症予防対策にご理解とご協力をお願いいたします。

共催/白八幡宮大祭文化保存会・弘前ねふた300年祭実行委員会  
後援/錦ヶ沢町・錦ヶ沢町教育委員会・弘前市・弘前市教育委員会・弘前大学地域未来創生センター  
(一社)錦ヶ沢町観光協会・(公社)弘前観光コンベンション協会・(一社)Can PECYN津軽



VI-1 津軽の京祭り 白八幡宮大祭シンポジウム

錦ヶ沢町で4年に一度行われる白八幡宮大祭は、北前船が伝えた「津軽の京祭り」とされており、神輿渡御に山車が伴う津軽地方で唯一存続している祭りとして知られます。一方、藩政時代には弘前城下でも弘前八幡宮祭礼が行われており、現在も残る祭礼の山車は、今年で文献登場300年の節目を迎える弘前ねふたにも影響を与えたとされています。

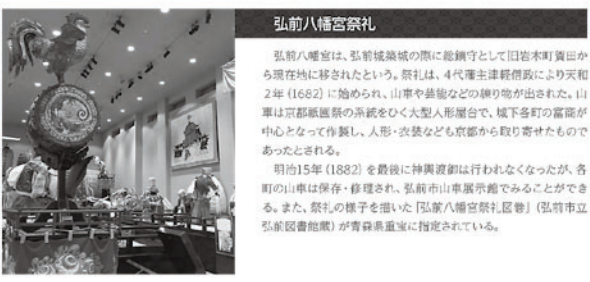
青森県の夏を彩る山車とねふたの祭り文化について、この地域で活躍する民俗学・歴史学の研究者の方々が集まり、その歴史と魅力を語り合います。



## 白八幡宮大祭 令和4年8月14日(日)~16日(火)開催

錦ヶ沢は弘前藩における日本海交易の拠点であり、津軽一帯で唯一の白八幡宮は、錦ヶ沢総鎮守として信仰を集めてきた。白八幡宮祭礼(現在は白八幡宮大祭と称す)は、延宝5年(1677)に始まり、元は弘前八幡宮祭礼と交互で行われていたとされる。大正時代から4年に一度となった。現在、津軽地方で唯一存続している神輿渡御に山車が伴う祭礼である。

山車や芸能には、海運によって上方から運ばれた文化の影響が色濃く残されており、京都の祇園祭の流れをくむことから「津軽の京祭り」と呼ばれている。青森県・錦ヶ沢町の無形民俗文化財に指定されている他、文化庁の日本遺産「北前船寄港地・船主集居」構成文化財にもなっている。



## 弘前八幡宮祭礼 令和4年8月1日(月)~7日(日)開催

弘前ねふたが初めて記録に登場するのは、享保7年(1722)、5代藩主津軽信将が「津むた」を高懸したという弘前藩庁「国日記」の記述である。元来は団角の灯籠を担いで遅く歩く七夕の「遅り流し」行事であったが、弘前八幡宮祭礼の影響を受けながら、後に大型のねふた(人形灯籠)が出現し、華やかなものへと発展していったとされる。現在の特徴的なねふた(黒灯籠)は明治時代中期からのものとされており、以後、弘前ねふたの主流となった。

国重要無形民俗文化財に指定され、今も市民の手によって受け継がれている青森県を代表する夏祭りの一つである。今年、令和4年(2022)、弘前ねふたは文献登場から300年の節目を迎えた。



